



ふくやまピース・ラボ事業 2020年度活動報告集



平和について学び，考え，発信しよう！

ふくやまピース・ラボのHPはこちら

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/peace-labo/>



福山市人権平和資料館

「ふくやまピース・ラボ」とは？

「ふくやまピース・ラボ」とは、戦争を知らない若い世代が、福山空襲や原爆について学習し、平和について考え、活動を通して平和へのメッセージを発信することを目的に活動しています。2020年度（令和2年度）で発足から6年目を迎えました。



ふくやまピース・ラボ
イメージキャラクター「ピギゅう」



1年間の活動記録

2020年	6月28日(日)	開講式, オリエンテーション
	7月12日(日)	講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」
	7月26日(日)	「第66回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に向けて
	8月 2日(日)	講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」
	8月 8日(土)	「第66回原爆・福山戦災死没者慰霊式」参列
	8月23日(日)	ホロコースト記念館の見学
	9月 6日(日)	フィールドワーク「福山市内戦争遺跡巡り」
	9月20日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて①
	10月 4日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて②
	10月18日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて③
	11月 1日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて④
	11月 3日(火)	「ピースウォーク」開催に向けて⑤
	11月 8日(日)	「ピースウォーク」開催
12月13日(日)	講義「被爆体験 親子の別れ」	
2021年	1月17日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアートの制作」①
	1月31日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアートの制作」②
	2月14日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアートの制作」③
	2月28日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアートの制作」④
	3月14日(日)	修了式

* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初の予定から約1カ月遅れのスタートとなりました。

活動報告 (全19回)

第1回 6.28 開講式／オリエンテーション



継続して参加している第2期生から第5期生までのメンバーに、第6期生の新たなメンバーを加え、ふくやまピース・ラボ6年目の活動がスタートしました。

オリエンテーションでは、これからの活動で取り組みたいことや平和のためにできることについて考え、発表を行いました。

- ・平和について考えを深めたい。
- ・福山空襲のことを知らない人に伝えたい。
- ・若い世代への発信を行いたい。
- ・人との関わりを大切にしたい。
- ・中・高校生、大学生など幅広い年代が集まり、意見を交わすととてもいい機会だった。

これから一緒に活動するメンバーにそれぞれの思いを共有しました。たくさん交流してみんなのアイデアを活かして活動していきましょう！

第2回 7.12 講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」



▶ 講師：北村 剛志さん
(元人權平和資料館副館長)

▶QRコードを読み取ると動画(YouTube)に移動します。



講義では、福山空襲の実相や当時の暮らしについて当時の写真や資料を用いて説明していただきました。戦争の「抑止力」は武器ではなく、私たち一人ひとりの戦争は嫌だという意識であると、平和への願いが込められた詩を紹介していただきました。
* 講義内容は福山市公式YouTubeに掲載しています。

《感想》

- ・自らの行動し、収集された情報や経験談から多くのことを学んだ。
- ・正しい知識を持つことを心がけたい。
- ・これからのを担う私たちがよく聴き、知り、伝えることが大切だと思う。

福山空襲

1945年(昭和20年)8月8日午後10時25分ごろ、テニアン基地から発進したB-29爆撃機91機が襲来し、約1時間にわたり556トンもの焼夷弾が投下されました。焼夷弾は豪雨のように降りそそぎ、福山の街を焼き払いました。市街地の約80%を焼失し、壊滅的な被害を受けました。

そして、福山空襲からわずか7日後の8月15日、戦争は終わりました。

空襲時間	1945年8月8日 午後10時25分から約1時間
爆撃機数	B-29爆撃機91機
投下爆弾	M47(油脂焼夷弾) 4,035発 139.2トン M17(集束爆弾) 1,666発 416.5トン
市街地焼失面積	314ヘクタール(市街地の約80%)
被災者数	47,326人(当時の人口: 58,745人) * 1945年8月1日現在
犠牲者数	355人
重軽傷者数	864人

第3回 7.26 「第66回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に向けて



8月8日(土曜日)17時30分から行われる「原爆・福山戦災死没者慰霊式」において、今年度も「追悼のことば」を述べることになりました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小して開催され、当日はふくやまピース・ラボを代表して3人が「追悼のことば」を述べます。

本日参加しているメンバー全員で、平和への願いを込めたメッセージを考え、ふくやまピース・ラボの「追悼のことば」が完成しました。

また、平和への願いが未来に引き継がれることを目的に若い世代からの「平和メッセージ」を集めている福山市の取り組みにも参加しました。

第4回 8.2 講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」



▶QRコードを読み取ると動画(YouTube)に移動します。



▶講師:森近 静子さん(ふくやまピース・ナビ会員)

福山空襲に遭った時の様子、感じたことや当時の暮らしについてお話していただきました。講義のおわりには、「平和の祈りは親から子へ、子から孫へと受け継いでほしい。」とメッセージをいただきました。
*講義内容は福山市公式YouTubeに掲載しています。

《感想》

・幼いころの「もうだめだ！」という言葉が忘れられないという話を聞いて戦争は、年齢を問わず、人の心に傷を残してきたのだということにあらためて感じた。
・私たちが受け継いで、伝承していかなければならないとあらためて感じた。

第5回 8.8 「第66回原爆・福山戦災死没者慰霊式」参列

2020年8月8日(土曜日)、1945年8月8日の「福山空襲」から75年を迎えました。

17時30分から慰霊式に参列、ふくやまピース・ラボを代表して3人が追悼のことばを述べました。「私たちが行ったことが、未来へと繋がります。一人の声、行動が平和を生みます。今は小さなことでも、いつかは大きなものになると信じています。心を一つにして、これからも平和を願い、ともに声を上げていきましょう。」

「戦争の日々を生き抜いた人々の声を聴き、考え、共に学ぶ仲間と話し合い、伝えていきます。」と、みんなで作った平和への思い、誓いを力強く訴えることができました。その後、折り鶴献納と献花を行い、犠牲者を悼みました。

これからの活動で、平和の尊さについて多くの方に伝えていこうと、平和への思いを新たにしました。



第6回 8.23 ホロコースト記念館の見学

ホロコースト記念館は、1995年6月、日本で最初のホロコースト教育センターとして開館し、2007年10月に今回見学させていただいた新館が建てられました。

「ホロコースト」とは、ギリシャ語で「全てを焼きつくす」という意味で、現在ではナチス・ドイツ(1933-1945)によってなされた、600万人のユダヤ人大虐殺をさして使われています。第2次世界大戦中のヨーロッパで、ただユダヤ人であるという理由だけで差別と迫害を受け、600万人もの尊い命が奪われ、その中には150万人の子どもたちがいたと言われています。

今回の見学では、ホロコーストの事実を学び、考えることができました。この世界から差別や偏見をなくし、平和を実現するために、私たちになにができるのか、考え、行動し、発信していきましょう。

《感想》

- ・私にできること、周りの人に優しく接することを実践していきたい。
- ・今まで学んだ知識を自分の声で、自分の言葉で説明・表現できるようになりたい。
- ・自分も「平和をつくりだせる人」になりたいと思った。
- ・学んだことを自分の言葉でしっかりと伝えていけるようにしていきたい。



第7回 9.6 フィールドワーク「福山市内戦争遺跡巡り」



福山市人権平和資料館において、福山空襲の概要(使用された爆弾など)について説明を受けた後、福山城公園やその周辺に現在も残っている戦争遺跡を巡りました。

慰霊碑(メレヨン島の碑、捨生取義の碑)、備後護国神社、高野山福山別院、土橋、光善寺、水野墓地、大念寺の石仏、福山城石垣、福寿会館、防空壕跡の順に説明を受けながら巡りました。この街で起きた悲惨な空襲のことを学び、考えることができました。

第8回
9.20

第9回
10.4

第10回
10.18

第11回
11.1

第12回
11.3

「ピースウォーク」開催に向けて



第8回から第12回までの活動では、11月8日（日曜日）に開催する「ピースウォーク」に向けて準備を行いました。

「ピースウォーク」は、参加者と一緒に、福山城公園やその周辺に残る戦争遺跡を歩いて巡り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考え、理解を深めてもらうことを目的に開催します。

「ピースウォーク」本番に向けて、準備及び当日の役割分担を行い、担当に分かれて準備を行いました。ポイントとなる戦争遺跡を巡り、自分たちの言葉で考えた説明原稿を作成したり、ラボのメンバーがデザインした当日配布用のパンフレットや情報発信用のパネル、参加記念品、アンケートなどをみんなで工夫しながら作成したりしました。

当日参加して下さるみなさんに喜んでもらえるよう、協力して取り組みました。

第13回
11.8

「ピースウォーク」開催

これまでの活動で学んだ、福山空襲や戦時下の暮らしについての情報をもとに、参加者と一緒に福山城公園及びその周辺の戦争遺跡を巡り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて「発信する！」ことを目的に「ピースウォーク」を開催しました。

ラボのメンバーは参加されたみなさんに、現在も残っている戦争遺跡を紹介し、平和の大切さについて考えてもらうため、準備を進めてきました。当日は、事前に申し込みをいただいた方、23人の参加がありました。



開会行事



自己紹介



当日参加のメンバー

《参加者の感想》

- こんな所に跡地があったのかという発見ができた。同世代の人たちが活動していたのは知っていたが、どのように広めているかまでは知らなかったので参加できてよかった。もっと知りたいなと興味をもった。
- 身近な福山の空襲について、より詳しく知ることができた。
- 若い方々が平和や人権について学ぼう、行動しようとしておられることをとても心強く思う。

《ふくやまピース・ラボのメンバーの感想》

- 準備期間では、原稿を作成したり、写真のフレームを作成したり、楽しく平和の大切さや福山空襲について伝えられる工夫ができたと思う。
- 「ピースウォーク」に向けた活動をとおして、自分自身が福山の戦争遺跡のことについて、多くを知ることができ、良い経験になった。それと同時に、自分たちが伝える側となって話すことで、より戦争のことについて知ることができた。

第14回 12.13 講義「被爆体験 親子の別れ」



▶ 講師: 廣中 正樹さん
(広島県原爆被害者団体協議会「被爆を語り継ぐ会」)

廣中さんは、1945年8月6日、爆心地から約3.5キロ離れた広島市己斐町（現：西区）で被爆しました。当時5歳でした。

今回の講義では、被爆時の様子や廣中さんとお父さんの別れについてお話していただきました。講義の終わりに、「みなさんも、親からいただいた自分の命を大切にしてください。そして、自分に何かできないか考え、行動できる人になってほしい。」とメッセージをいただきました。

《感想》

- ・当時5歳だった廣中さんの心中は自分には考えきれないものだったと思う。
- ・原爆によってということが起きたのか、当時の人々がどういった状態だったのかがよく分かった。
- ・これから自分にできることをしっかりと考えていきたい。

第15回 1.17 第16回 1.31 第17回 2.14 第18回 2.28 1年間の活動を振り返って～ピースアート2020の制作～



1年間の活動のまとめ、そして、より多くの方に私たちの活動を知ってもらうため「ピースアート2020」の制作を行いました。ピースアートのデザインは、メンバーそれぞれが考えたものの中から投票で決め、みんなで協力して制作しました。パズルに見立てたアートのそれぞれのピースには、今年度の私たちの活動の様子を収めた写真やメッセージ写真を組み合わせ、「Piece for Peace」（平和を求めて）のメッセージを込めて制作しました。

完成したピースアートは、今年も「まなびの館ローズコム」のエントランスホールに展示予定です。

〈展示期間〉2021年3月27日（土曜日）～5月7日（金曜日）

第19回 3.14 修了式



福山市人権平和資料館の高橋館長から、メンバー全員に参加証書の授与を行いました。高橋館長から「今年学んだことを次の学びにつなげてほしい。」とメッセージをいただきました。

また、ラボのメンバーから活動を終えての思いを発表し、「コロナ禍で予定どおりの活動はできなかったが、みんなで工夫して活動ができてよかった。」「ふくやまピース・ラボをとおして学んだことを伝えていきたい。」など、活動をとおして感じたことや考えたことを発表しました。

今年度は、制限される中での活動でしたが、第19回まで開催することができました。そして、学校も学年も違うからこそいろいろなアイデアが生まれ、ともに平和について学び、考え、発信することができました。みんなのこれからの活動・活躍に期待しています。

2020ふくやまピース・ラボの活動を終えて

梶原 百恵（福山高校2年）

“コロナ”という不安な状況のなかでも平和について考え、学び、行動することが出来たことに嬉しさ感謝の気持ちが溢れています。

また、2021年1月22日に「核兵器禁止条約」が発効しました。平和な世界の実現へ繋がる大きな一歩を踏み出し、新たなスタート地点に立った私たち。学び続けること、訴え続けることの大切さを改めて実感しました。これからも仲間と学び、学んだことを発信していきます！

今は小さなことでもそれが平和へと繋がる大きなものであることを信じ、活動していきたいです。

川西 満葉（福山暁の星女子高校2年）

今年は私にとって2年目の活動でした。感染症の流行により昨年とは違い、広島市への研修や「ふくやま人権・平和フェスタ」での朗読劇など平和について発信する多くの場が中止となってしまいました。

しかし、核兵器禁止条約の発効に伴ったSNSでの発信など離れていても平和を思う心は、世界共通であることを再確認することができました。

この活動は、福山に生まれた私たちだからこそ行える活動です。来年は、実際に平和を発信できる場に立てることを願っています。

鈴木 克幸 （大門中学校3年）

今年度は、受験勉強をしていたこともあり、なかなか参加できませんでしたが、それでもあたたかく歓迎してくれたので嬉しく思いました。

今回、石畳の割れや、石垣が赤くなっているのが、すべて戦争（福山空襲）によるものだ改めて知り、自分の周りにもそういうものがあるかもしれないと思い、探してみたいと思いました。

林原 伊吹 （広島大学附属福山高校2年）

過去の原爆・空襲
同世代に伝えていこう!!

矢野 結乙（岡山龍谷高校1年）

私は、初めてピース・ラボの活動に参加しました。ピース・ラボの活動を通して、福山で起きた空襲や戦争、ホロコースト記念館の見学などで様々なことを学ぶことができました。

ピース・ラボの活動で、一番印象に残っていることは、実際に戦争や空襲を体験された方々からの貴重なお話を聞いたことです。

実際にお話をされた方々の思いを受け継ぎ、次の世代へ伝えていこうと思いました。

特に、若い世代は戦争を知らない方々が多いと思うので、SNSの活用等をとおして、平和の大切さや戦争の悲惨さを多くの方々に知ってもらおう活動をしていきたいです。

松脇 汐音（福山暁の星女子中学校2年）

私は、平和活動などをとおして今年度改めて平和の大切さを知ることができました。福山空襲や広島原爆について自ら考える力を身につけることができました。私は学校で人種差別や障害のある人について今年は多く学ぶことができました。私は平和や人権、差別について学ぶことは大切なことだと思いました。

戦争のことなどを後世に伝えていくために私たちが学び、考え、これからは平和について発信していきたいです。私は広島に生まれ、広島に学び、平和の大切さを知ることが出来ました。二度とこんなことが起きないように、これからは平和を守っていききたいです。



藤井 杏香（福山葦陽高校3年）

今年度の活動はコロナウイルスの影響で限られた中での活動でしたが、一つ一つの活動を一生懸命取り組むことができました。ホロコースト記念館の見学を通して、原爆ではない視点から平和について考えることもできました。

ピースウォークでは、私が説明をしている際、うなずきながら聞いてくれる参加者を見ることができて、少しでも福山空襲の出来事が伝わると思うとうれしく思いました。

ピース・ラボの活動をとおして、平和とは何かと考えさせられます。もっといろいろな経験をおして自分の中で答えを見つけていきたいと思えます。

黄地 菜々恵 （福山高校2年）

私は、ふくやまピース・ラボの活動をおして、福山空襲の悲惨さやこれからの世界平和のために何ができるかについて学んできました。

そして、学んだことを次につなげ、戦争によって大切なものを奪われるという人がいなくなるよう、これからも学んでいきたいです。

谷口 結萌 （福山暁の星女子中学校2年）

私にできることは、戦争について学び、学んだことを未来に発信することです。戦争は人々の命を一度にして奪います。

平和がいつまでも続けられるよう、戦争をなくしていかないといけないことをピース・ラボの活動をおして学びました。

山田 真生（福山暁の星女子高校2年）

私は、今年初めてピースラボに参加しました。福山空襲の話を聴き、平和メッセージの作成や慰霊式に参加させて頂いたりして、福山に住んでいる私たちでさえも福山空襲に対する意識が低いことを改めて実感しました。

11月に開催されたピースウォークでは、参加して下さった方に自分が学んだこと、福山空襲のことを知ってもらいたいという思いで、身近に感じてもらえるような工夫を考えました。この活動に参加して、福山空襲を伝承していくことの重要性や仲間とひとつのことを作りあげる、達成する楽しさを知りました。

この素敵な活動がもっと多くの人に知ってもらえるといいなと思えます。

羽原 涼太（福山高校2年）

今年度の活動をとおして、最も印象的だったのは「ピースウォーク」でした。私がまだまだ知識不足で、平和を広めるにはまず、自分が何を学ぶかが大事だということを感じました。ラリーに来てくださった方々は、戦争のことをあまり知らない若者からとても詳しいご年配の方までさまざまでした。「これは何のためにつくられたの?」「この場所は何があったの?」質問をされたとき、答えられないときがありました。自分は案内する側なのに恥ずかしく思いました。これからの目標として、人に語れるくらいより多くの知識を身に付けて、主体的な活動をめざしていきます。



桑田 衣里

私は、ピース・ラボの活動をはじめ今年で5年目になります。これまで様々な人に出会い、様々な考え方や経験に触れ、視野を広げるきっかけに多く出会えました。

広島戦争の爪あとや地元の戦災遺跡について調べ、勉強をした中で、人は環境によって優しくもなれるし、残酷なこともできる両面性を持ち合わせていると思っています。

コロナ禍の今こそ、人の気持ちを考える、人の価値観を認め合い、協力し、より良い世界になってほしいと思えます。

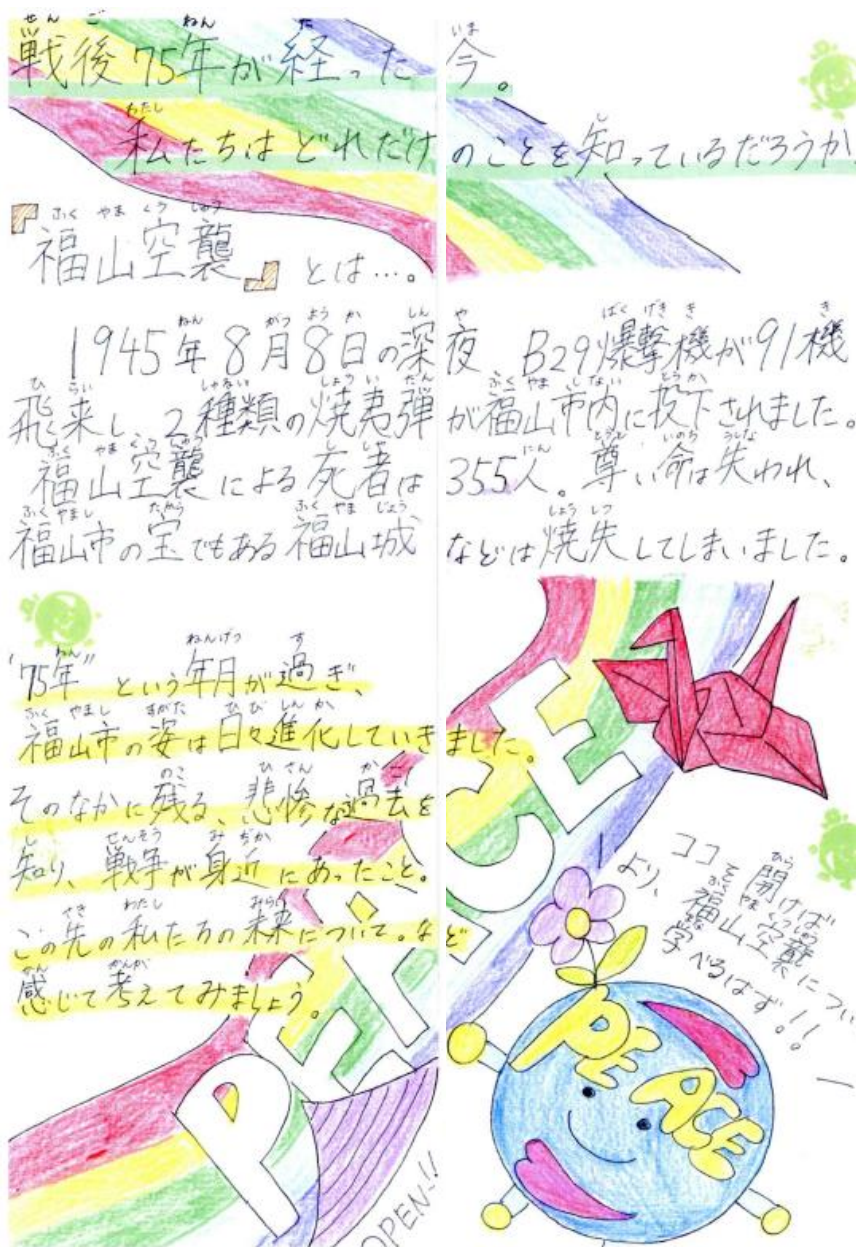
そのために、私にできることを思いつく限り実行し、自分も含めた居心地の良い環境が皆で創れる世の中になってほしいと心から思えます。

山口 蒼空（福山高校2年）

私は、今年度初めてふくやまピース・ラボに参加しました。様々な活動、そして、他の人たちの意見、それらのもの全てが私を成長させてくれました。

「平和」という言葉はたくさんの視点から見ると、それだけ今の生活に対して感謝することが大切であるということ、今の世界をもっとかえていかなければならないこと、自分には考える必要のあることがたくさんあるのだということがすごく分かりました。

「自分の考えを行動にうつす」という新たな目標を達成するために、これからも平和活動に努めていきます。



▶「ピースウォーク」で作成したパンフレット

赤井 理子（広島大学法学部法学科4年）

新型コロナウイルスの流行により、突然私たちの「当たり前」の日常は消えてしまいました。

これは、75年前「当たり前」の日常を過ごしていた多くの人の命・生活が奪われたあの日と重なる部分もあるのではないのでしょうか。

今こそ、私たちの尊い日常、平和の大切さを学び伝える時です。戦争の日々を生き抜いた人々の声を聴き、考え、共に学ぶ仲間と話し合い、伝え、そして、世界に繋げていく。このことを、私たちは未来の平和のために続けていきます。



佐々木 琴子 （福山暁の星女子高校2年）

ピース・ラボの活動は2年目ですが、今年は去年と違いコロナ禍で活動が制限されました。その中でも様々な活動をとおして平和についての大切さ、戦争の恐ろしさを改めて感じることができました。県外に住んでいるだけで知らなかったことがたくさんあり、私だからこそできることがたくさんあると感じました。

今、私たちが過ごしている日々が当たり前ではないということを心に留めて、これからも平和について考えていきたいです。

谷口 世玲奈 （川崎医療福祉大学2年）

今年はコロナの影響もあり、あまり活動ができなかったことが残念です。

私は、岡山の学校に通っており、岡山の友達は福山空襲について知らないと話していました。まだまだ福山空襲について知らない人がいると思います。福山空襲について友達との会話の中で伝えていければと思います。



～Piece for Peace～

平和を求めて



発行 2021年3月
編集 福山市まちづくり推進部人権・生涯学習課
〒720-8501
広島県福山市東桜町3番5号
TEL (084) 928-1243
FAX (084) 928-1229